

# 奈良工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム R7年度 自己点検評価（応用基礎レベル） [内部評価]

評価日時：令和8年4月2日

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟 多目的室

目的：令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	A	令和6年度より開始したプログラムで、まだ修了生はいない。情報工学科以外を対象にした選択科目「数理データサイエンスAI基礎Ⅰ」が集中講義形式で開講され、受講者15名全員が単位認定となった。
2. 学修成果	A	授業担当者及び教務委員会によって履修・単位修得率の状況が把握されている。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	履修生に対して授業アンケートが実施され、教務委員会においてアンケート結果が分析されている。アンケート結果から、学生の内容の理解度に問題はないことがわかる。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等ほかの学生への推奨度	A	新入生オリエンテーション等を利用して入学生に周知し、授業アンケートの結果も学内掲示板に公開している。また、第2学年を対象に数理データサイエンスAI教育プログラム（応用基礎）を紹介する講演が行なわれている。
5. 全学的な履修者数、履修率向上にむけた計画の達成・進捗状況	B	必修科目のみで履修となる情報工学科以外の学生は選択科目履修が必要となり、現状では履修率が高いとはいえない。今後、魅力あるプログラムの紹介等の工夫が必要となる。

S:審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A:審査項目の観点通りの成果を達成した。

B:審査項目の観点通りの成果を達成に至っておらず、改善の余地がある

# 奈良工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム R7年度 自己点検評価（応用基礎レベル） [内部評価+外部意見（運営諮問会）]

評価日時：令和8年4月2日

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟 多目的室

目的：令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	令和8年3月時点で修了生がいないため
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	運営諮問会外部委員より「『学習成果』の記載に『学んだことを自ら説明でき、それを応用できる』などを付け加えてはどうか」、「より強化されてはどうか」、「限られた時間でどのような育成方法をとられているのか」との意見があった。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	運営諮問会外部委員からは特に異論はなかった。 年度末期に専門性の近い教員でグループFDを実施し授業資料・課題内容・試験内容等の点検や意見交換が行われている。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	運営諮問会外部委員より「授業アンケートからどのように改善を図るのか」、「他の授業の内容との関連性は考慮されているのか」、「課題はどのような観点で設定されているのか」との意見があった。 授業アンケートを参考に内容・水準の維持・向上が図られていた。

S:審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A:審査項目の観点通りの成果を達成した。

B:審査項目の観点通りの成果を達成に至っておらず、改善の余地がある